

山梨県総合計画審議会第2回産業部会 会議録

1 日 時 平成26年5月23日(金) 午前10時～12時

2 場 所 ホテル談露館「アンバー」

3 出席者

・ 委員(50音順、敬称略)

今井 久	岩間 公勇	大輪 玲奈	金丸 康信	韓 暁宏
河野 暢子	小林 新司	小林 寛樹	進藤 中	中澤 晴親
廣瀬 久信	三澤 彩奈	村松 公孝	山田 幸子	

・ 県 側

知事政策局長 総務部次長 産業労働部長 観光部長 農政部長
(事務局：知事政策局) 政策参事 政策主幹

4 傍聴者等の数 2人

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 知事政策局長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 会議に付した議題(すべて公開)

- (1) チャレンジミッション 14について
- (2) その他

7 議事の概要

- (1) 議題(1)について、資料により事務局から説明し、次のとおり意見交換を行った。

(委員)

5つの部門から、特に産業部会に関係したチャレンジミッションの説明、チャレンジミッション14の説明があった。

はじめに、今説明を受けた中で、この辺をもう少し知りたい、この辺の意味が分からないところがあれば、質問等を受けたいと思う。

(委員)

各部から、説明をいただいた資料の中に、数値目標が入っているが、普通数値

目標を出す時には現状はどうか、実績がどうで、それからそれに対して目標をどういうふうに設定するのかということがないと、この目標が果たして妥当な目標なのか、どうやって達成していくのか検討できないと思う。実績に係わる資料を示していただけないか。

(観光部長)

観光部の数値目標は、先ほど申し上げた観光の推進計画の中に常に年度計画があるので、それに基づいて、記載している。そして、25年の実績については、22ページに掲載している。はじめに、おもてなしの推進の1番の満足度、この割合については、40パーセントを目指しているが、25年度では、アンケートの聴き取り調査では40.5パーセントであった。

次に、リピーター率。このリピーター率は、年1回以上山梨に訪れたかどうかという質問であるが、それが平成25年度の実績で60.1パーセント。あとこれに5パーセント伸ばさなければならない。

そして、その次の重点項目の2、観光入込客数。これは、延べ人数で計算しているが、4,700万人であるが、平成25年度で4,351万人。

そして、その次の県内延べ宿泊客数は、745万人であるが、平成25年度は652万人。

富士の国やまなし観光ネットのアクセス数は、1,200万ビューであるが、平成25年度では、既に超えており、1,360万ビューを達成している。

その次の24ページの について、外国人の述べ宿泊客数は、80万人を目標としているが、平成25年度で48万人の宿泊となっている。

通訳ボランティアガイド・通訳案内登録数は、これはすでに170名ほどで平成25年度に達成している。外国人アクセス数は、平成25年度で25万ページビュー、あと3万ほど伸ばさなければならない。

そして、その次の重点項目の4、「やまなし暮らし支援センター」来場者数1,800人については、25年度には1,742人が訪れている。数値目標は以上である。

(委員)

観光部から今、数値目標、根拠を示しいただいたが、それぞれの部で数値目標があるということは、それぞれ昨年の実績もあると思う。ここに全部出すのは大変であるから、一覧表にして比較対象表を作成し、目標を作った理由や根拠を表に示していただくと非常に分かりやすいと思うので、事務局としてやりやすいのではないか。

(政策参事)

先程の目標と実績について、部会長の発言のとおり、ここで一つ一つ説明すると時間もかかるので、分かるような形で一覧にして、後日、提示・送付するので、よろしく願います。

(委員)

一覧にして、送っていただければ分かりやすい。よろしいか。

(委員)

データが出てくるということになると根拠が非常に大事になるので、その辺が理解できる。それから実績よりも下回っているのは何だ、何で下回っているのか、色々あると思う。去年は甲斐の国は国文祭があったので、その辺の状況はあると思うが、いずれにしてもこの辺の方針の説明もお願いしたいと思う。

今の説明を受けて、それぞれ専門の皆さんがいらっしゃるので、この辺はこういうことを考えたかどうかとか、この辺については少し理解ができないとか、いやこれはもっといいよ、進めた方がいいというような意見をそれぞれ伺いたいと思う。全員の発言をお願いしたい。

(委員)

それでは二点ほど。

一点目は17ページの新産業の創出に関しては、先週の日曜日に、朝日新聞にあるGLOBEという特集の中で、ソーシャルビジネスという切り口で、今非常に注目されている。特に新産業の創出と言った時には、これからソーシャルビジネス、特に地域でいうとコミュニティビジネス、山梨県であれば「えがおつなげて」の曾根原さんという有名な方がいて、曾根原さんは、知事とも色々お話しされていて、山梨でも1千億円の産業になる日は近いとお話しされている。コミュニティビジネスは、社会の問題を事業にしていく新事業、新産業の創出として一つの切り口になるのではないかと考える。

そのほか、新産業と言った時には、曾根原さんは耕作放棄地を活用して農業をしている。また、農業だけではなく、都市と繋げるような仕事もされている。このチャレンジ14では、各事業部の計画になっているが、農業と、例えばこの産業労働との関係もあるし、また耕作放棄地を使いながら観光にからめて、三つ巴みたいなこともできる。今後どのように考えているのかが質問である。

もう一つは、富士山に関して、富士山の夏山対策は非常に取られているが、先日のニュースで冬山が無法地帯になっていて、誰でも入れるようなことが記事にあった。私も実は登山好きで、山が閉まったあとに9月の中旬、下旬ころ登山した。これを法律で取り締まるというわけにはいかないが、冬山の対策を今後どのように考えているか意見を聞きたい。この二点である。

(産業労働部長)

それでは一点目の質問について産業労働部から回答する。

ソーシャルビジネスは、今お話しがあったように、これからの成長産業の一つであると考えている。本県でも企業の中には、東南アジア向けに、水を浄化する装置を非常に格安で作り、現地の人達が購入できる価格で開発し、進出していき

たいという動きもある。県では、国費を活用した支援や技術的なサポートを行いながら支援をしている。

本県としては、平成23年に産業振興ビジョンを作成し、11の分野を中心に成長産業への取り組みを進めている。その中には、もちろん農業の六次化もあり、観光の分野もある。産業労働部とすれば、これからの成長産業としては医療機器分野、あるいは燃料電池の分野などに企業の関心が非常に高いため、今はそこを重点的に色々な支援事業を通じて、中小企業を支援している状況である。

幾つかの成長分野を各部でどのように対応するかについては、産業振興ビジョンの11の分野について、産業労働部としては機械電子産業を中心とした分野をしっかりと支援していく。それから農業に関しては農政部で支援していく。観光については観光部で支援していくという形で、それぞれの部が責任を持って対応している状況である。

（委員）

私は公募でこの委員にさせていただいた。その時の公募のテーマが、山梨県の人口を増やすためには、どのようにするべきかという内容であった。大学の時の仲間が東京にいて、定年後の話題の中で、「山梨県はいいよ。移住したらどうだ。」と話をしたことがあった。先般の大雪の後、仲間と会って色々話をした時に、「国道20号線、あのラインしかない。どう見ても地形的に不利だよ」と言われた。冗談のような話ではあるが、根本的にどこにでもこのような問題があるのではないかという気がした。県では、どのように考えているか、今日の議題にはそぐわないかもしれないが根幹の部分だと思うので、教えていただきたい。

（知事政策局長）

はじめに、富士山の件について回答する。冬山の関係は、今まで、登山者の責任、個々の責任という形になっている。事故等が増えていく中で、本来であれば登山計画を提出するとか、啓蒙していく必要があると思う。その冬山への対策については、これからの検討課題となっているので、今後しっかりと検討していきたい。

委員の発言のように9月の登山については、通常、夏山シーズンを7月1日から8月31日までとしていたが、今年度は閉山日を9月15日に延長し、先程説明した安全管理センターを開設して、安全な登山に対応していきたい。

（委員）

10月、9月いっぱいぐらいの有効策はないのか。

（知事政策局長）

延長については、関係者もいるので、また検討したいと思う。

次に、人口増、移住の関係について、県としては、地方として社会減と自然減に対応している。中々、一地方としてどうしていくかというのは中々難しい問題

ではあると思う。この問題については、多面的、多角的に検討する必要があると思う。今回の大雪で交通のインフラが脆弱であることが明らかになった。昨日、知事が国に自ら、交通インフラ、特に高速道路、中部横断道の整備を要望した。特に中央道は寒い地域を通るので、どうしても雪の影響を受けやすい。中部横断、静岡に抜けるルートができれば、安全を確保できると思う。南のルートは建設が進んでいるので、29年には完成できると思う。北に抜ける中部横断についても早期に建設できるようにしたい。県としても、高速道路を複数建設することで安全を確保できるようインフラの整備を進めたいと考えている。

高速道路が止まった時の20号線の対応について、昨日も国会議員からも意見があり、今後検討していかなければならないと思っている。委員の意見については、県としても十分に意識しているところである。

(委員)

この点をもっと県民または全国に発信していかなければならない。インフラの整備は大変であると思うが、このような体制である、このような考え方があるので、「皆さん山梨へようこそ」というようなステージを作っていくほうが私はいいのではないかと思う。

(委員)

二点だけ意見として。

資料を見た中で、学生からの視点として、山梨大学や産業技術短期大学など山梨の大学などと連携していくことや、こういう機会があれば、学生が山梨を知る機会にもなると思う。関わることで、若者が山梨に就職したいと思える機会が増えると思うので、ぜひ山梨県内の大学に、主に学生に投げかけるような形で、イベントスペースの活用など話をもっとしていただけたらと感じた。

私は、大学でユニバーサルデザインのピクトグラムを研究している。25ページの重点項目の東京オリンピックとパラリンピックでは、一般の人が見ただけでは分からない標識とか、外国の方が来るとなると日本語で書かれているだけでは分からないとか標識の問題が生じると思う。ユニバーサルデザインのピクトグラムは、例えば、絵と絵を組み合わせて車の絵と駐車場のPという文字で、ここは車の駐車場を表すようなものを作るというものである。大学でこれを試験的に運用しくことになり、今度、市役所主催のシンポジウムでも使わせていただくことになった。こういうものを導入していただければ大学生が動く機会も増えると思う。ユニバーサルデザインのピクトグラムの発信県として山梨県を大々的に全国や世界に伝えていけるのではないかと思うので、ぜひそのユニバーサルデザインを検討していただきたいと思う。

(委員)

観光に主として係わるものではないかと思うが、先週名古屋で、本業である広告のメディアの集まりである全国広告連盟の総会があり、そこでこの1年間に優

れた広告、キャンペーン活動の表彰があった。民間の企業ではダイワハウスのユニークなテレビコマーシャルなどを中心としたキャンペーン活動が表彰され、行政からは、大分県と熊本県が表彰された。

大分県は、温泉県大分をPRするテレビコマーシャルを中心に、湯布院と別府の旅館の女将がそれぞれ私のところのほうの方が優れているというような議論をしているとか、親子がお風呂に入って湯の中でほのぼのとしているシーンとか、色々なコマーシャルで賞を取った。

熊本県はもっとユニークで、例のクマモンを使って、新しいキャンペーンでクマモンのほっぺ失踪事件というのを作り上げた。クマモンのほっぺには赤い丸が二つ付いているが、あれがどこにいったという発想である。知事がクマモンのほっぺ失踪宣言をすると、それで県の内外にほっぺの赤い丸のないクマモンが出没してクマモンのほっぺを探してくださいということをしてPRする。なぜ、ほっぺが落ちたかというおいしい物を食べるとほっぺが落ちるという発想であり、ついでに熊本県のおいしいものをPRすると。非常にその柔軟な発想で評価をされたということであり、行政、中々難しいところがあると思うが、ぜひそういう柔軟な発想を持っていただきたいと思う。

防災新館は、県警本部や教育委員会が入っている建物であるため、セキュリティの面で制約があることは理解しているが、5時ぐらいに閉まってしまうとか、イベント広場も同様で、アフター5の活動には中々対応ができていないのではないかと思うので、これは無理だとか、前例がないというような発想はぜひ捨てていただいて、いろんな面で柔軟な発想で行政から意見をいただくということを要望したいと思う。

(委員)

二つの項目について、意見を述べたい。23ページの重点項目、外国人旅行者の来訪の促進。その中にある観光プロモーションを海外に展開する。もう一点はICT活用である。達成すべき目標および重点施策事業に取り上げられている項目は、具体的なプロモーションなどかなり詳しく書かれていると思う。ICT活用では、海外に発信するとあるが、少し弱いのではないかと感じる。

二点提案させていただきたいと思う。海外へ発信するには、ホームページなどがいいと思うが、山梨県に在留する外国人を活用すべきではないかと思う。具体的には、学院大学、山梨大学、英和大学などに修学している600人から700人の留学生や、毎年卒業する200人前後の留学生を活用すべきだと思う。中国あるいは韓国、インドネシア、ベトナム、タイなど東南アジア諸国から来られた留学生が大勢いるので、活用すればどうか。

今の留学生に、山梨の美しさ、あるいは観光スポットを知ってもらおう。例えば、大型バスで留学生を集めて、観光スポットに訪れ、山梨の良さを知ってもらおう。今はSNS、いわゆるソーシャル・ネットワーキング・サービスが非常にはやっている。スマホを活用して、何かあったらおもしろいので、すぐアップしてそれを伝える。例えば、山梨英和大学の中国の留学生が利用している「QQ」、要す

るに日本版のフェイスブックを利用して、どこかに行ってその場で写真を撮ってすぐ友達や親戚に送っている。

通訳ボランティアガイド・通訳案内士登録数は169名とあるが、これから特にオリンピックやパラリンピックで、日本に来ていただいたお客様に山梨まで足を運んでもらうとなると、この人数では中々対応できないと思う。例えば、山梨県の通訳ガイドバンクを作り、構成員の中に各大学の留学生を50名登録して、参加してもらおう。特に、県内の大学の留学生には、積極的に参加したい気持ちがあると思うので、各大学にお願いして、山梨通訳ガイドバンクを作ることもできるのではないかと思う。

(委員)

私もその通訳のことについて、先程、若いから学生と発言されたと思うが、在住の外国人の方とか、それから日本人と結婚なさった方も大勢いる。そういう方は、通訳の仕事に携わっていないので、お願いすればやっていただけるのではないか。そういう方にも集まっていただいて、そういう会を作ったら本当に有効利用できるのではないか。

それから富士山の文化遺産について、私たち観光に携わる者にとっては、富士山が文化遺産になったことを喜び、外国のお客様や日本人もたくさん来るのではないかと思っていた。山梨の方、皆さんも思っていたと思うが、河口湖のある旅館の方が去年、富士山が世界文化遺産に登録されたけれども、一昨年よりもお客様が減ってしまったと話していた。ただ、登るだけではなく、富士山というのは色々な見せ方がある。登るために来るわけではないので、色々な工夫が必要であって、向こう方面の方で、富士山のそばだから期待していた方が何かがつかりしていることを伺ったので、その点をもっと慎重に考える必要がある。

もう一つは、ワインタクシーは、大変好評である。お客様をタクシーへ何組かを乗せる。しかし、すごく私が不思議に思ったのは、娘も私もワインが好きなので、お客様に言われれば必ずワインを半日かけてご案内する。しかし、そんな便利なことをしているにも関わらず、それほどお客様はいらっしやらない。ワインタクシーという言葉があると、今度ワインタクシーがあるからいいとおっしゃる。だから、やはり宣伝の仕方というか、宣伝の重要性というのを今回感じたので、もっともっと掘り出す部分があるのではないかと思う。

また、大雪の時に大変なことがあった。交通機関がよければ良かったのだが、四泊ぐらい帰れない方もいた。大雪のため、御坂インターで河口湖に回れなくなってしまい、泊めてくださいと戻ってきたドイツ人の方がいた。向こうの方はお二人で一部屋になるので、金曜日のお客様が、結構宿泊されていたが、日本のお客様2組に理由を話して一緒になっていただいて、その方たちをお泊めした。そのドイツの方は、パンとジャムを食べたいという希望だったので、パンを買いに歩き、秋にたくさんいただいた柚子をジャムにした。4日間宿泊されたが、たいへん感謝され、その後、旅行会社の方からもお礼があった。どこの旅館にもあったと思うが、災害が起きたとき、私たちが、おもてなしでその状況の中で一番で

きる方法を考えれば、また次の観光につながるのではないかと思った。

もう一点。桃の花と言われるが、農家の方は、桃源郷の中に空いた場所をつくらないよう、たいへんな努力をしている。何とか助成など支援していただき、花を咲かせて、やはり山梨県は桃源郷だと言われるようにしていただきたいというのが私のお願いである。

(委員)

私は繊維の業界に身を置いているので、ブランド化について聞きたい。繊維産業も今色々な支援を受けているが、支援を受ける際には必ず計画書を作っている。それは当たり前なことだと思う。しかし、突発的な案件が上がってきた場合、明らかに効果はあるが、計画書を作成できず、そのため、支援を受けられず、実現できない案件もある。例えば、JRの駅の商業施設から半年程度、店を出さないかという案件が出ている。この案件は、前々から事前に分かって出てくるものではなく、突発的に企業から投げかけられた。人目の付く所に店が出せれば、すごいPRになるという効果は目に見えているが、自分たちだけでは、少し無理だと思っている。このような案件の場合に何か対応できるような支援策を伺いたい。

(産業労働部長)

行政としては、予算を有効に使いたいと考えており、年度初めに募集して、早期に対象を決定したい。したがって、年度後半に、このようないい話が出てきても、予算がないということもあり、十分に期待に応えることができず、申し訳なく思っている。しかし、募集を2回、3回に切り分けるなど工夫をして、年度途中の新規の優良な案件についても対応できるような工夫を考えたいと思う。

(委員)

商工会で支援しているので、一回会議所へ相談してください。相当な支援はあると思う。

(委員)

提言が二つほどある。一つは22ページにおもてなし推進の で、下から二つ目のポツの所、先ほど森林の整備ということで富士山がよく見えないような場所の木を少し切るという話があった。確かに、私も山に登った時に結構思うこともあるので、良いことだと思う。それと合わせて、今回、説明をしていただいているが、35ページ県土整備部の重点項目5のすぐ上のポツの所に、電線類地中化工事とあるが、これもやはり景観をよくする上では、ぜひ高い優先順位で実施していただければと思う。

東京電力との協議も必要なので、中々難しいところもあると思うが、この電柱の地中化ができれば、おそらく山梨県どこから見ても富士山が綺麗に眺望できると思うので、ぜひ力を入れていただければありがたいと思う。

それからもう一点は、18ページ産業労働部の重点項目の2の海外展開への支

援であるが、私どもの銀行も東南アジアへの進出については積極的に支援をしている。しかし、最近のタイのクーデターやそれから中国の状況など、カントリーリスクというものがどうしても付いて回るところがある。最終的には、向こうに進出する人たち、進出する会社の自己責任だと思うが、行政としてもカントリーリスクに対する対応というものを今のうちから対処しておかれたほうがよろしいのではないかと思う。

（委員）

今言われた地中化の関係はNTTも係わるので、ご要望いただければと思う。

それと私ども労働組合は、企業誘致など含め雇用が活性化することで、機能する組織である。地域の活性化をどう進めていくのかということを検討して行政の中で議論して、先ほど今井委員からもお話が出たが、これを読ませていただくと、組織の流れ、縦組織で横のつながりがうまくいくのかということに心配している。特に、観光の部分の空き家の紹介と、これと農業政策を含めた課題がうまく合うのかどうか。また、うまくマッチングができる状況で、連携がとれているのかどうか。それと防災新館のイベントの地域の活用を含めたものと、中心市街地の活性化に向けた動きというのがうまくリンクしていくのか。また、その中心市街地の活性化に向けて、その商店街の皆さんとどのような連携を持って行くのかなどを心配している。当然、甲府市も中心市街地の活性化に係わるので、市の行政ともどのようなタイアップをしていくのかを聞きたい。

もう一つは、国に提出している山梨県がエントリーした雇用促進関係の施策について、それらも含めて今どういう状況なのか。また、その市街地の活性化に向けて、現在、県としてある企業にアプローチをかけて、動きが出ているような状況、この件について、尋ねたことがあるので、差し支えなければその辺も話をいただければと思う。

（産業労働部長）

甲府の中心市街地活性化については、市と一緒に話し合いながら計画づくりを進めている。そこに盛り込まれた事業について、一生懸命支援していく。具体的には商工会議所や市が行うイベントへの支援とか、あるいは商店街の活性化に向けた事業に対して支援する形で協力することが県の立場である。中心市街地の活性化のためには、イベントももちろん大事だと思うが、その街自体にみんなが行ってみたくなる魅力を、一つ一つ積み上げていくということが一番大事だと思う。事業への支援もあるが、会長がおっしゃったように、魅力あるものの一つとして、食があるのではないかと思う。世界的に有名な食の店を誘致するなどの取り組みも進めている。そのようなことが実現すれば、それを目当てに人が集まってくると思うので、技術上の色々なサポートなど総合的に実施しながら活性化に向けて努力していきたいと思う。

それからもう一点。最初に申し上げたように山梨県の雇用情勢は全国的にみて少し厳しい状態である。そこで、雇用情勢が厳しい県を対象に厚生労働省が雇用

創出を支援するプロジェクトを創設した。全国から出てきた中から効果的提案を選んで、そこに重点的に支援をする事業が昨年始まった。山梨県としては早速手を挙げ、3年間で約10億円規模の雇用を生み出す事業を提案し、今年3月にそれが採択された。今年度からまず2億円を上回る規模の事業を雇用のために実施する予定になっているが、具体的な事業に関しては、6月補正予算にかけないと実施できないので、これから議会の審議をいただいでご了解いただければ早速にも取り掛かりたいと考えている。

(観光部長)

観光部では、観光部の仕事以外にも、農政関係、林業の関係、土木の関係に対応するため、それぞれの管理職を観光部に配置し、連携を取っている。移住・交流の仕事は農政部から配属された職員が担当し、連携を取って実施している。

(委員)

農業の問題では先ほど農政部長から山梨県の現状の話をいただいた。また2月の雪害の件については、山梨県では、施設園芸が大きな打撃を受けた。山梨県は全国の中で葡萄と桃とプラムは日本一の生産量を誇っている。県そのものは小さいが、非常に高度な技術をもって果物を生産している。全国では、米が圧倒的な強さを持っている。米の場合、山梨県では、一反歩の生産のうち大体6分の1ぐらいしか利益を取れない。一方、ブドウやモモでは、一反歩50万もその売り上げを得ている。そのため、反収で比較すれば、山梨県は断トツの生産を挙げている。しかし、葡萄や桃やプラムの生産量はまだまだ少ない。そこで、知事が「果樹王国の火を消さない」ということをよく私どもに話している。農政部の皆さんも、私ども「Aグループと本当に車の両輪のごとくということを含い言葉に指導をいただいている。

農政部長の先程の話の中で、山梨の農業を伸ばしていくには観光事業にも力を入れていくことが必要だと思う。富士山が世界遺産に指定されて、観光客が今、非常に期待をしている。また、リニア開通に伴い山梨・東京間の所要時間が大幅に短縮される。これらを活用して、外国人観光客を誘客し、果物を提供したい。私は輸出も重要だと思うが、同時に観光客への果物直売に力を入れていくべきだと思う。

私は、知事や農政部長と台湾、香港、上海、シンガポールに訪れ、輸出に力を入れている。国によって輸入に関する規定が違うので、それに対応することが非常に難しい。一昨年のように台湾でモモシンクイガが一個出ると、その国では日本の果物は輸入しなくなる。したがって、輸出には非常に神経を遣う。国内の値段を安定させるにはどうしても外国に山梨県の果物を売っていかねばならない宿命がある。

2月14日、15日の雪害被害に遭われた方々に共済金を支払った。しかし、必要な資材が不足し、購入できない状況にある。ハウスの場合では、パイプを購入できないので、ぜひ支援の年数を今年度だけではなく、2、3年伸ばしていた

だけないかと農政部に要望した。

今後、山梨県でおいしい果物が生産できるよう、有利販売をしていく手立てを考える必要があると思う。

(委員)

私は山梨でワインを造っている。現在、9カ国に輸出し、ほかにも3カ国から引き合いがある。私自身が物を造っていることは、モノがいい、品質こそ全て。これが私のモットーであり、品質がいいということが何よりもマーケティングだと思っている。海外に発信することよりも、まず品質がいいということが、物づくりの本質だと思っている。

新しい物をつくり出すことも魅力的ではあるが、今ある物を大事にすることも非常に大事だと思っている。例えば、フランスでは、葡萄畑が世界遺産になっている地域があり、その地域では、放棄地とか農作地の横にソーラーパネルを置いていない。景観に配慮し、葡萄畑が綺麗であることが人を呼ぶと思う。したがって、モノがいい、今あるモノを大事にするという本質から絶対離れてはいけないと考えている。

山梨 = 環境に優しい県というイメージがあり、私が幼いときには、山梨県 = 環境県につながる施策があった記憶している。それが刷り込まれているので、山梨が環境県になったらいいのではないかと思い、環境都市として表彰されているドイツフライブルクを訪れた。フライブルクでは、皆さんが自転車を使ったり、ソーラーパネルの屋根があったり、古い建物をすごく大事にしていたりとか、そういう光景を見て、山梨でも取り組みたいと思った。

ドイツに行く前に訪問したスウェーデンのストックホルムでは、ホテルも含めて全てのゴミ箱が、細かく分別されている。私は、ゴミをどこに捨てればいいのかとを考えていたが、小さい子は単純にパッと捨てる行動を見ていいなと思った。また、ストックホルムでは、バイオマスを利用して電車が走っている。私はワインを造っていて葡萄の搾りかすなどを産業廃棄物として捨てているが、こういった物も燃料にできないかなと思っている。自分も技術者であり、山梨には技術者が多いので、地元の大学生などと協力して、バイオマスとして活用できたら素晴らしい県になると思う。ただ有機農業とかを謳うのではなく、本質的なところから行動していくことが私は山梨の理想だと思っている。

(委員)

観光について、外国人の誘致を積極的に行うということあるが、道路標識や観光案内標識に英語表記を追加しないと、誘客したはいいが、来県した外国人がどこに行っているかわからないということでは、山梨県には次から来ないと思うので、ぜひ取り組んでいただきたい。

農業について、今回の雪害で施設ハウスは結構倒壊した。しかし、私は、明確に言えば自分の施設園芸を潰しませんでした。潰れなかったのではなく、潰しませんでした。こういうことが結構ある。潰れた農家だけには9割補助。国と県・

市を合わせて9割補助で再建、ハウスを建て替えるということができるという情報を聞いた時、正直に言って、がっかりした。これなら潰せばよかったと。15年、20年も使ってきたハウスを見守ってきた人間が何にも補助がなく、潰れたハウスがたった1割で建て替えられる。こんな不合理なことはありません。県としても、残した、潰さなかった農家に対して支援をお願いする。

(委員)

3点申し上げたい。

先程、委員からも発言があったが、オープンしたりニアの見学施設における英語の表記が白っぽい感じで見にくい。アメリカの大使が見学に来る施設であり、注目されていると思う。施設には、はっきり分かる外国語表記をしていただき、そういう考え方を県全体で共有して欲しいと思う

あともう二点は、先ほど委員からも話があったが、観光客など外国人の安全の問題。それからあと一点は、富士山に登るだけではなく、着地型観光という視点がやはり少ないのではないかと思う。富士山に連れて行く、観光客はそれを目指して訪れるだけではなく、どのようにしたら宿泊者が増えるとかという発想をもって欲しい。

最後にもう一点。私がここに来る途中、山梨中央銀行の外壁をペンキで塗っている光景を目にした。市街地活性化、甲府の街づくりの視点で、街を綺麗にする取り組みや、以前UTYで取り上げた繊維の関係の番組など、県だけではなくて民と一緒に働くという姿勢が大事だと思った。

(委員)

私のほうから四点ほど。

まず一点。この計画の中で & A がない。創業支援はある。創業というのは実は大変なことである。 & A と言うと非常に悪いイメージで買収というような印象を与えるが、悪いイメージではなく、県内のいろいろな産業を見ていると、自分はやる気はないが、これを何とかだれかに継いでもらいたいという思いがある。これをうまく繋いでいくということが計画の中の支援の一つに欲しい。今ある物を大事にする。先程、三澤委員からも発言があったが企業も同じだと思う。

それからあと通訳の問題であるが、県の国際交流協会がこれに取り組んでいて、あと5つぐらいの市町村も取り組んでいる。私も南アルプスの国際交流協会に関係しているが、市町村の国際交流協会がしっかりした市町村では、通訳が結構登録されている。県と市町村がタイアップしながら取り組む必要があるというのが二点目。

それから観光について、南アルプスの林道を10日ぐらい早く開けて欲しい。長野県のほうが10日早い。そのため、そこで行き止まりになる。それを毎回お願いしているが、山が崩落する危険があるというのが担当者の意見であり、観光部から担当部に働きかけて欲しい。

それから実感であるが、この間の大雪の時に、国道52号線は不通だった。後

に聞いた情報であるが、業者が除雪を始めたところ、住宅の庭の入り口が全部山になり、それに対して地元から苦情がでた。北海道やアメリカのボストンなどでは常識であるが、除雪によりできた山を取り外して出入りするというのが住民の責任となっている。150年に1回のことであるからやむを得ないが、県としてもある程度PRしていく必要がある。こういう特別な時には、みんなで力を合わせましょうという雰囲気を作っていたらと思う。

8 追加意見

(委員)

過日、オープンされたりニア見学センターの施設案内の英文が見にくい。外国人が興味を持ち訪れる施設なので、施設内やパンフレット、ホームページ等に、英語、中国語、韓国語などの表記をお願いする。既設の施設においてもできる限り、同様の対応をお願いする。

今冬の豪雪の際、多くの観光客が足止めを余儀なくされた。外国人観光客も含め、県内を訪れた方々に対する安全対策の検討をお願いしたい。今後、想定される災害への備えとして避難対策等を検討しておくことは是非とも必要である。

富士山の世界文化遺産登録や、東京オリンピック開催などの好条件を追い風として本県への誘客が図られることを期待したい。そのためには、本県を訪れる国内外の観光客に、県内で十分楽しんでいただけるよう着地型観光への工夫、取り組みが更に検討されるべきであると思う。

豪雪の際、国際交流センターに避難してきた外国人はいなかったが、それぞれの地域で対応した。県の防災アクションプランに「在県外国人」についても、明記するよう検討をお願いしたい。

9 その他

5月23日から6月2日にかけて開催された全5部会において、副会長、会長代理を務めていた委員の退任に伴う後任の副会長、部会長代理については、今井立史委員とすることで了承された。